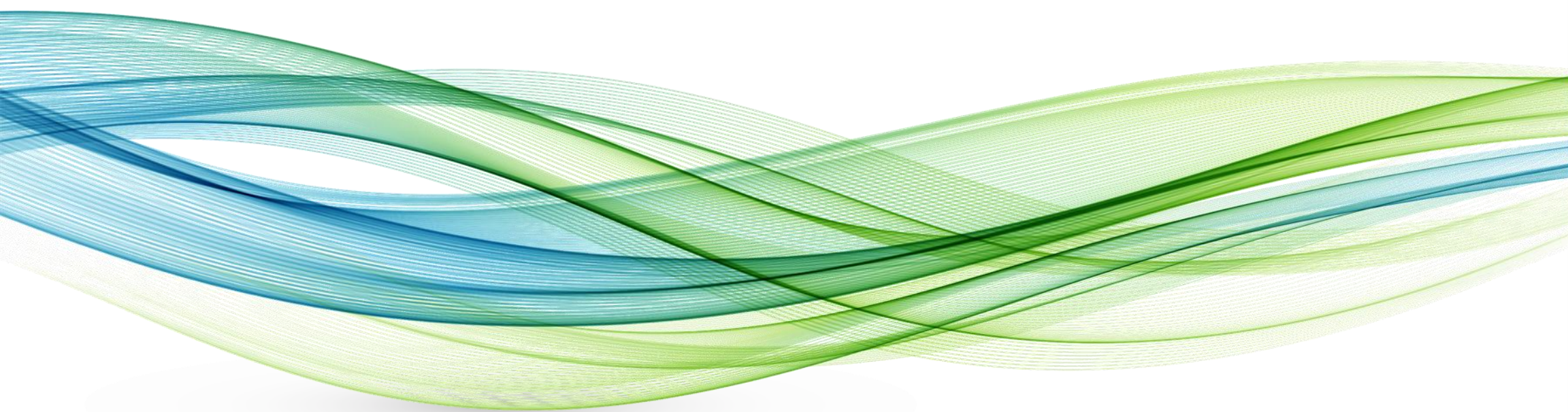


# 派遣会社における生成AIの事業影響と 活用実態に関する調査結果

2026年5月18日



1

## 生成AIの事業への影響は足元では限定的だが3年後は強まる

現状の需要影響は「ほとんど影響していない」48.9%。一方で派遣社員へのAIスキル要求は現状の15.6%から3年後には71.7%へ高まると考えられており、データ入力や一般事務などの定型業務における事業影響などが懸念されている。IT・エンジニアや医療・介護・福祉領域では、需要維持・拡大を見込む声もみられた。

2

## 社内AI活用は進展しつつあるが効果測定は進んでいない

社内業務での生成AI活用率は75.1%と高いが、労働時間の削減については「計測していない」が4割を占めている。また生成AI活用を阻害する要因としてはセキュリティや個人情報の取り扱い、内勤社員のスキル不足が多くあげられている。

3

## 派遣社員への教育訓練は今後拡大見込み

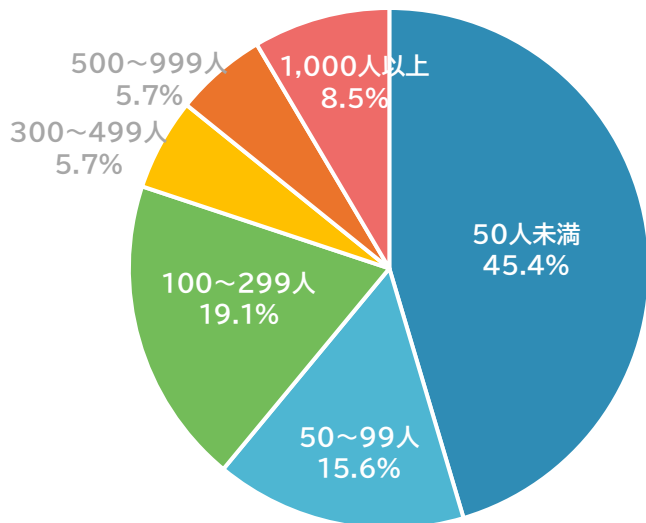
派遣社員向けの生成AIに関する教育訓練は13.5%が実施、43.3%が今後の実施を検討中。

# 調査実施概要

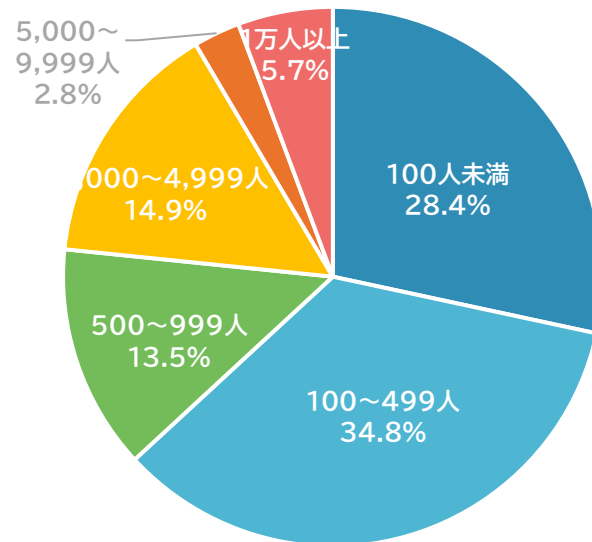
調査名	派遣会社における生成AIの影響と活用実態に関するアンケート調査
実施時期	2026年3月30日～2026年4月30日
調査対象	(一社) 日本人材派遣協会 会員企業 (2026年4月1日現在 796社) 優良派遣事業者 認定取得企業 (2026年4月1日現在 128社)
実施方法	ZOHO Surveyを用いたインターネット調査
告知方法	対象企業にメールで依頼
有効回答数	141社 (うち派遣協会会員 133社 会員以外の優良派遣事業者 8社)

## 回答企業の属性

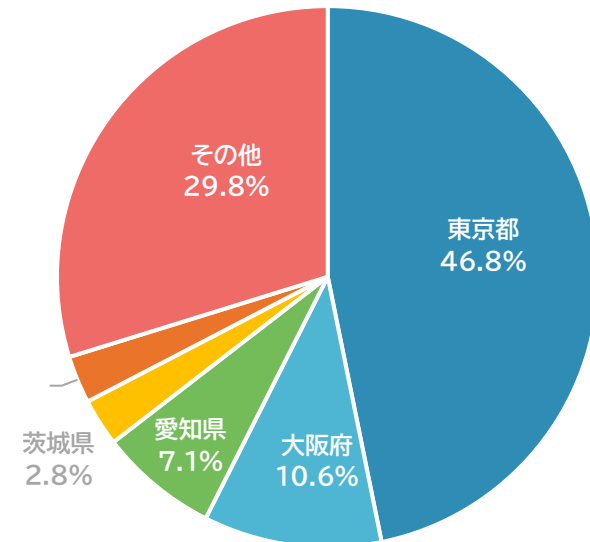
### 従業員規模



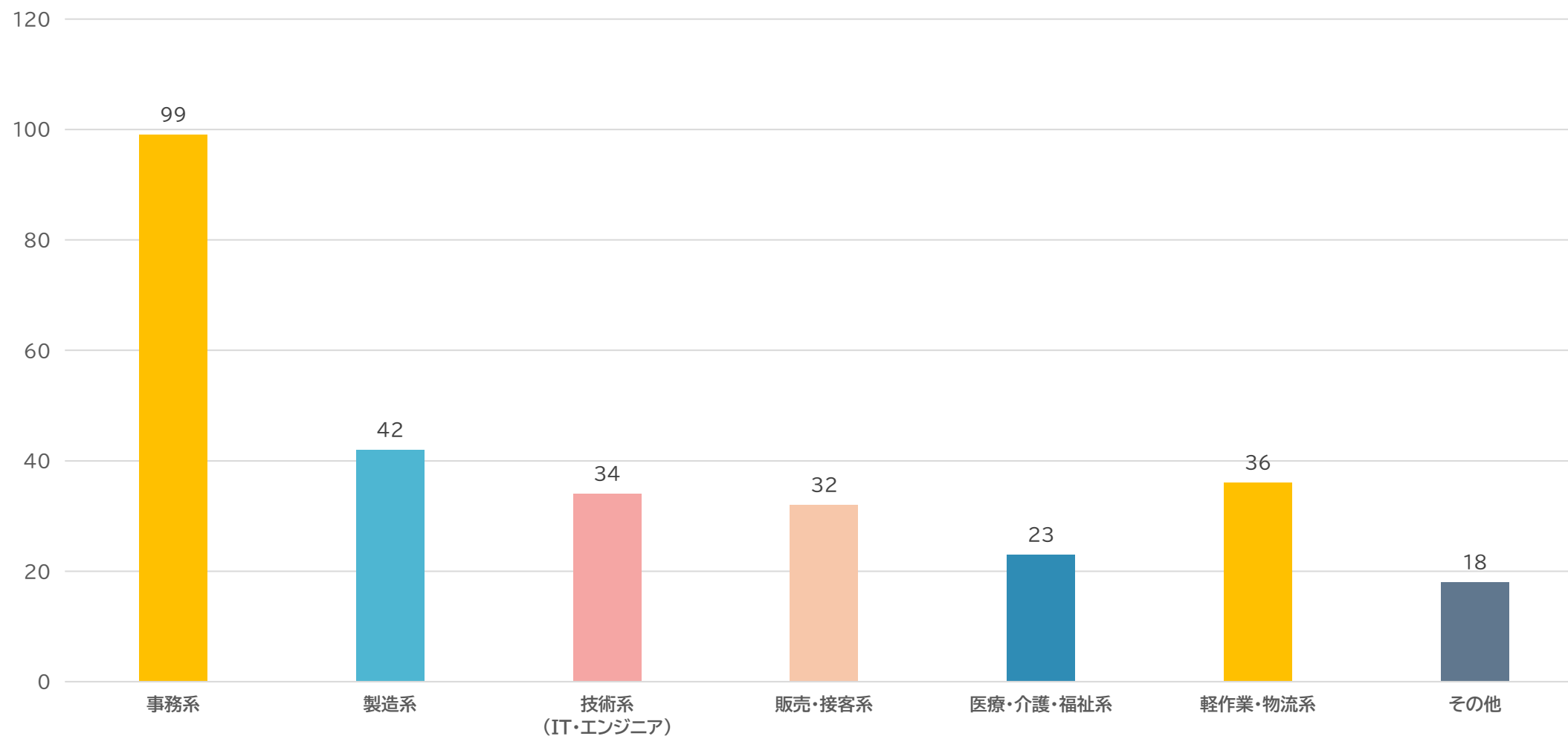
### 派遣社員数規模



### 本社所在地



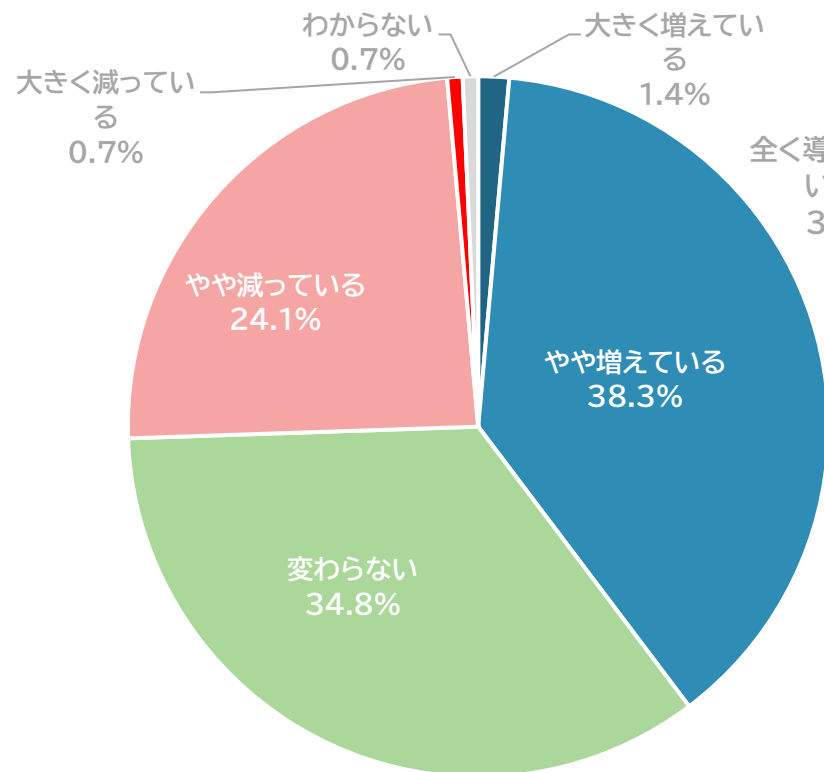
# 回答企業の主な事業領域（複数回答）



# 1. 派遣需要と派遣先におけるAI導入の影響①

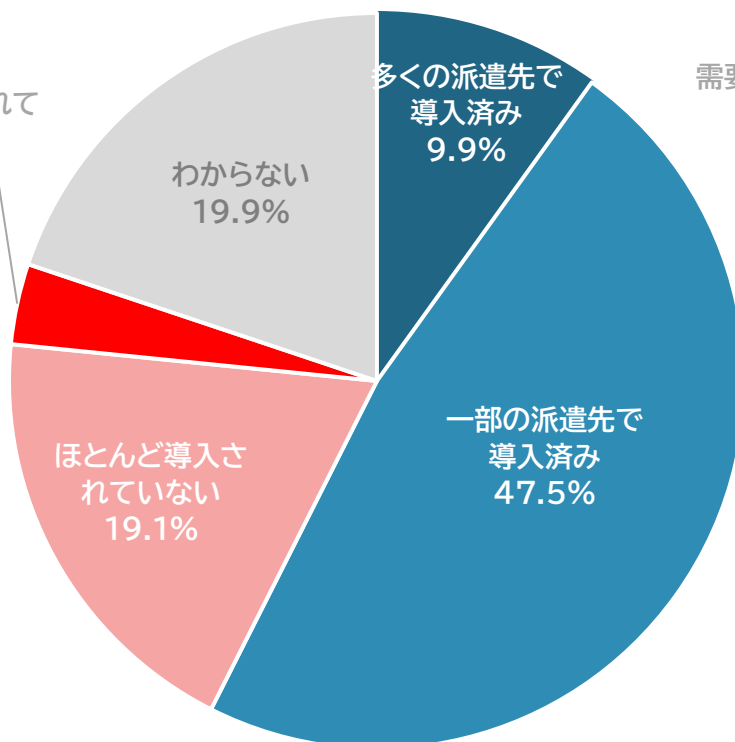
足元の派遣需要は「やや増えている」「変わらない」が中心で、大きな落ち込みは見られない。派遣先での生成AI導入はまだ一部にとどまり、需要への影響も現時点では限定的と受け止められているが、需要増よりは需要減に影響すると感じている割合が多い。

昨年同時期と比べた派遣需要はどのように変化していますか？直感でお答えください。  
(n=141)

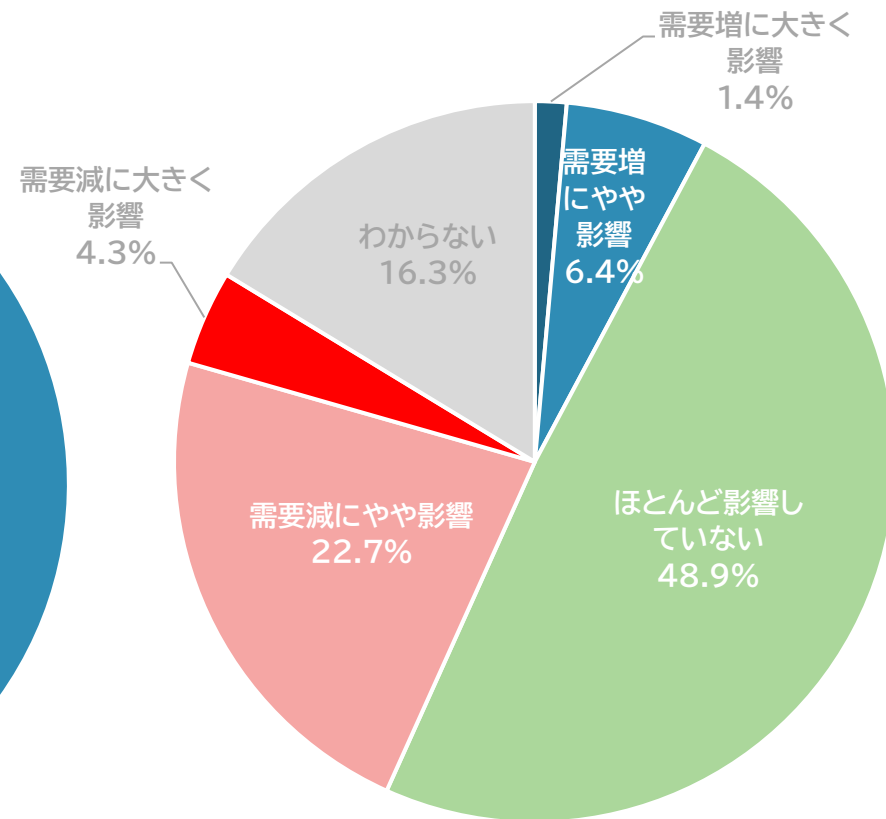


派遣先企業での生成AIの導入状況について、実感に近いものをお答えください。  
(n=141)

全く導入されていない



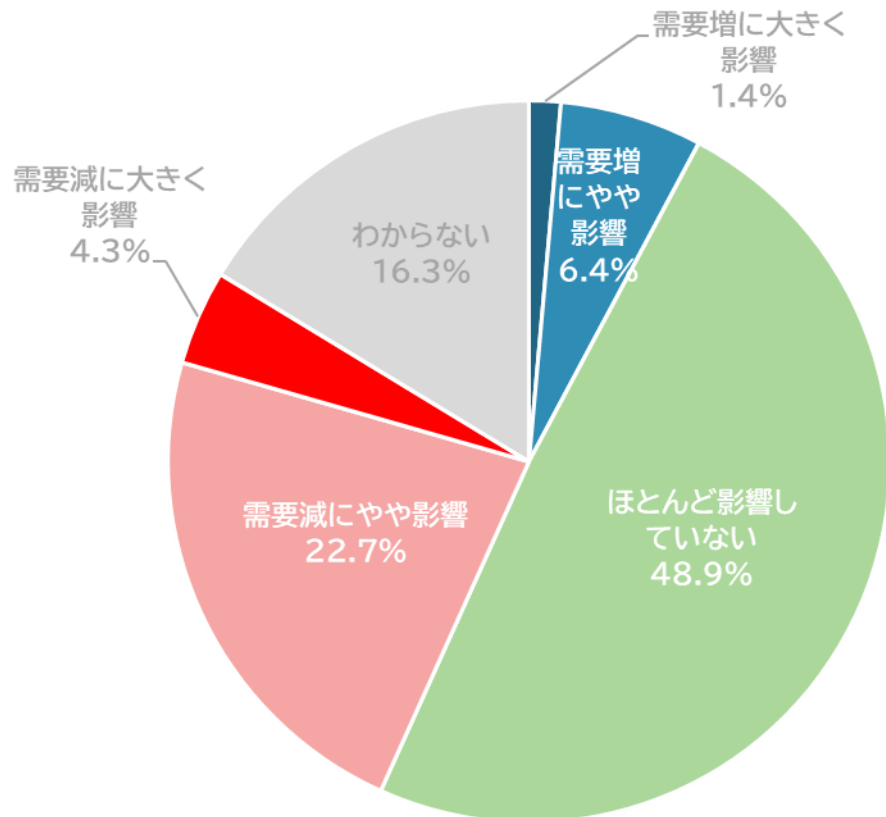
派遣先での生成AIの導入は、派遣需要にどのように影響を与えていると感じますか？  
(n=141)



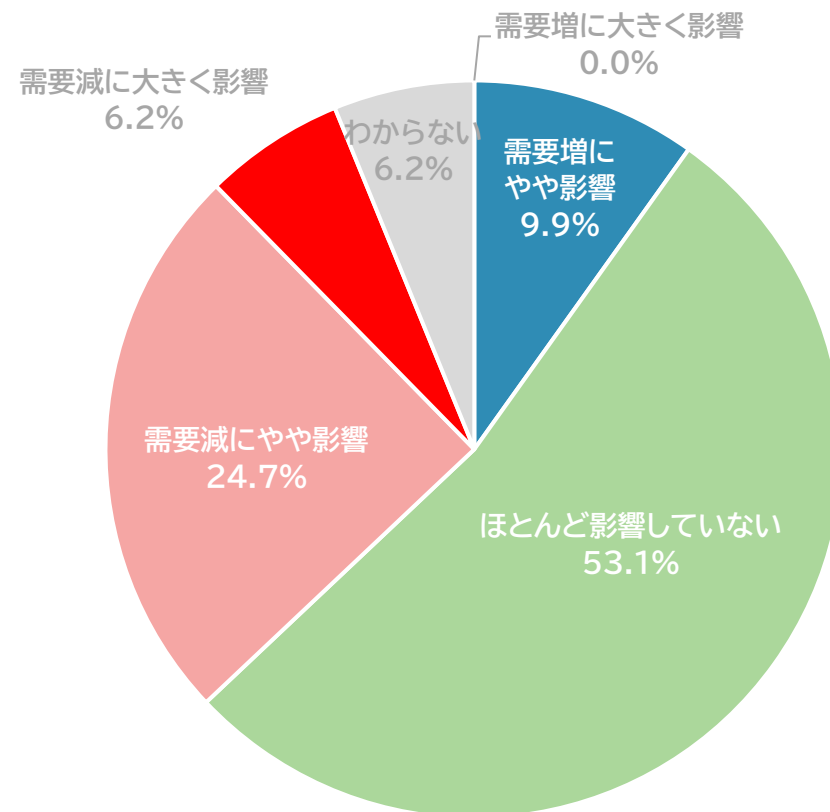
# 1. 派遣需要と派遣先におけるAI導入の影響②

派遣先でAI導入が進んでいる企業でも、「ほとんど影響していない」が過半を占めるが、需要減への影響を感じている回答も3割あり、今後の動向には注意が必要。

派遣先での生成AIの導入は、派遣需要にどのように影響を与えていると感じますか？（全体 n=141）



派遣先での生成AIの導入は、派遣需要にどのように影響を与えていると感じますか？（派遣先が生成AI導入済み n=81）



## 2. 生成AI活用スキルの需要

現状では派遣社員に生成AIスキルを求める声は限定的だが、3年後には大きく高まると考えられている。派遣社員の付加価値としてAI活用力をどう育成するかが重要になる。

現状

3年後

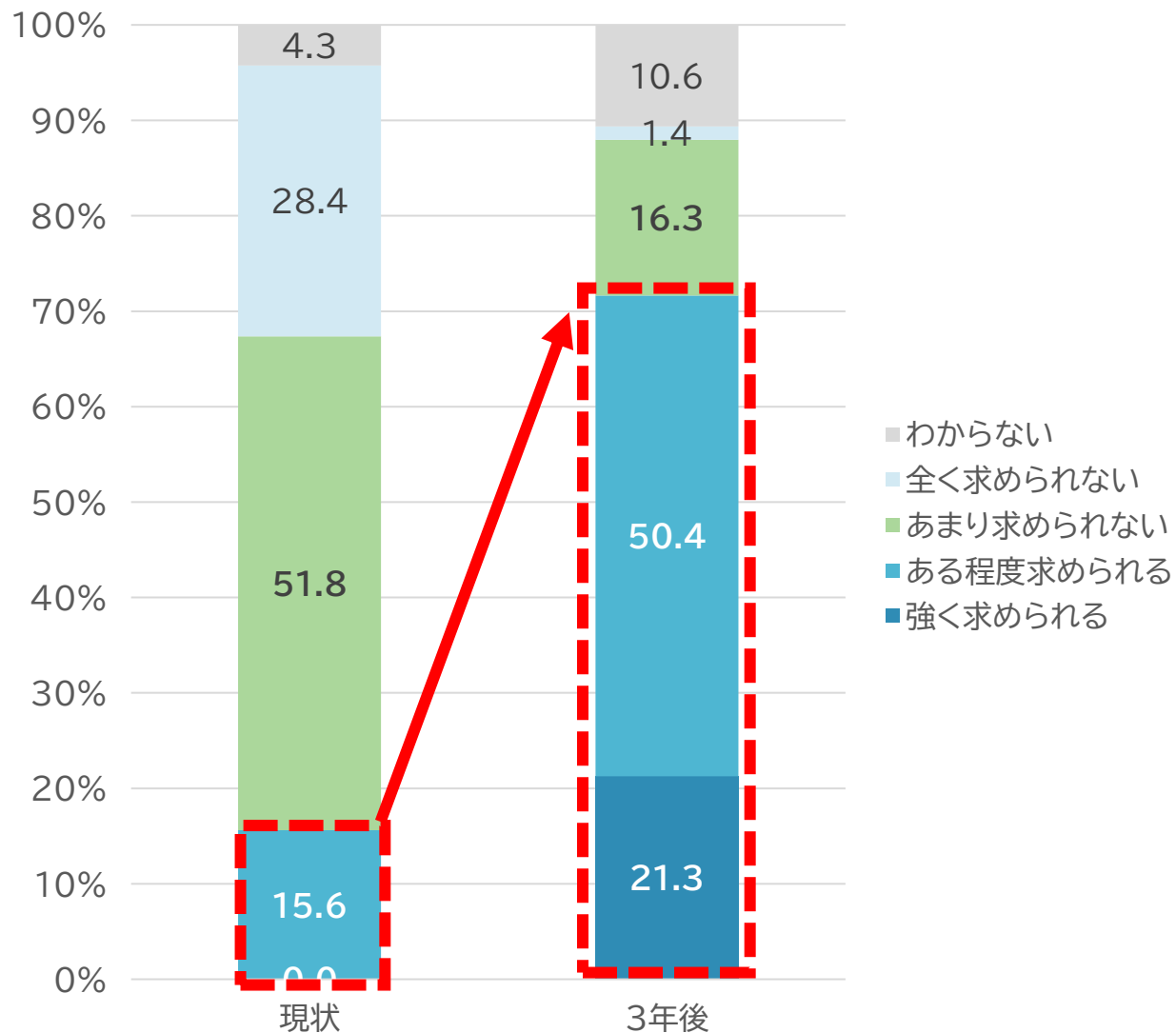
15.6%

71.7%

「ある程度求められる」15.6%  
「強く求められる」0.0%

「ある程度求められる」50.4%  
「強く求められる」21.3%

「派遣先から派遣社員に「生成AI活用スキル」が求められる度合いについて現状と今後(3年後)の予測にわけてお答えください。」



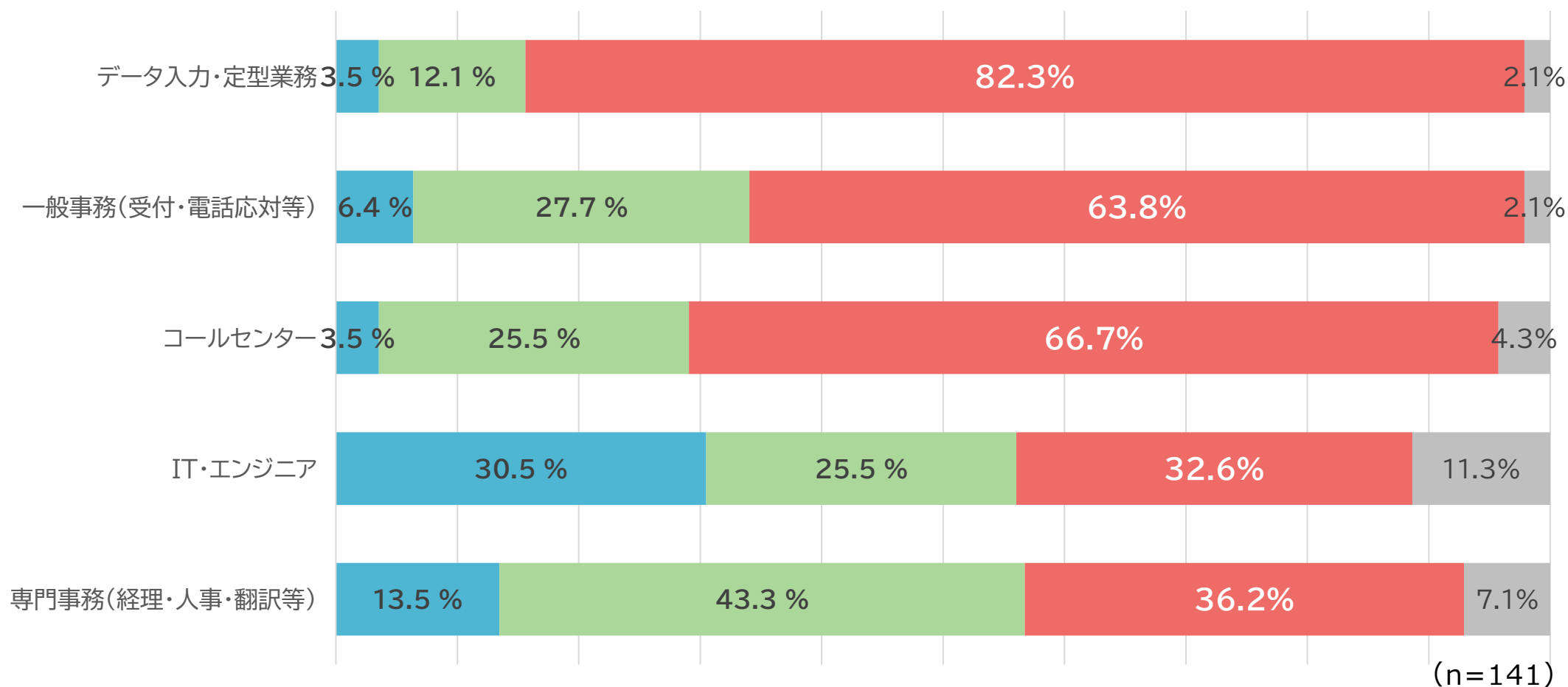
(n=141)

### 3. 生成AIによる派遣業務別の3年後のニーズ変化

データ入力・定型業務、一般事務、コールセンターなどの事務系業務では、3年後にニーズが減少するとの見方が強い。一方で、IT・エンジニアではニーズが増えるという見方も多く、専門業務では「変わらない」という回答が最も多い。

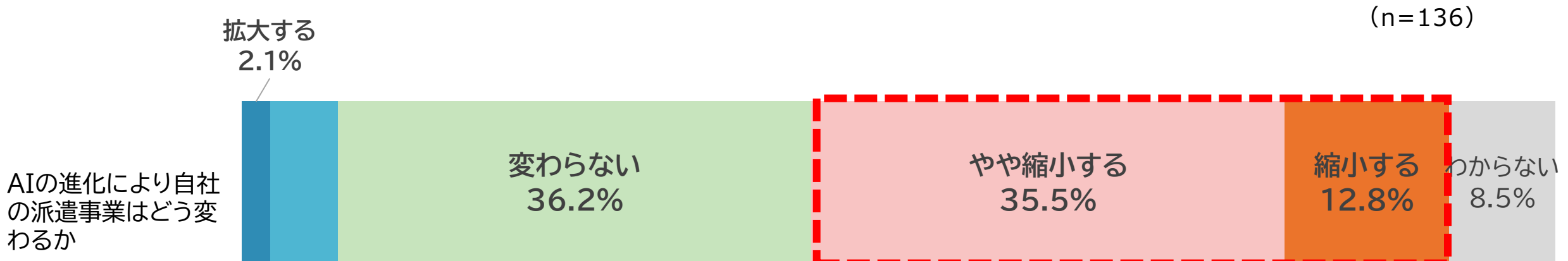
「派遣業務の3年後のニーズはどのように変化するとお考えですか。業務ごとにお答えください。」

■ 増える ■ 変わらない ■ 減る ■ わからない



# 4-1. AIの進化による日本の派遣社員数と自社の事業の変化見通し

AIの進化により、日本全体での派遣需要変化を見込む企業が多い一方で自社の事業については影響を限定的に見ている企業が多く、新たな需要への期待も見られる。

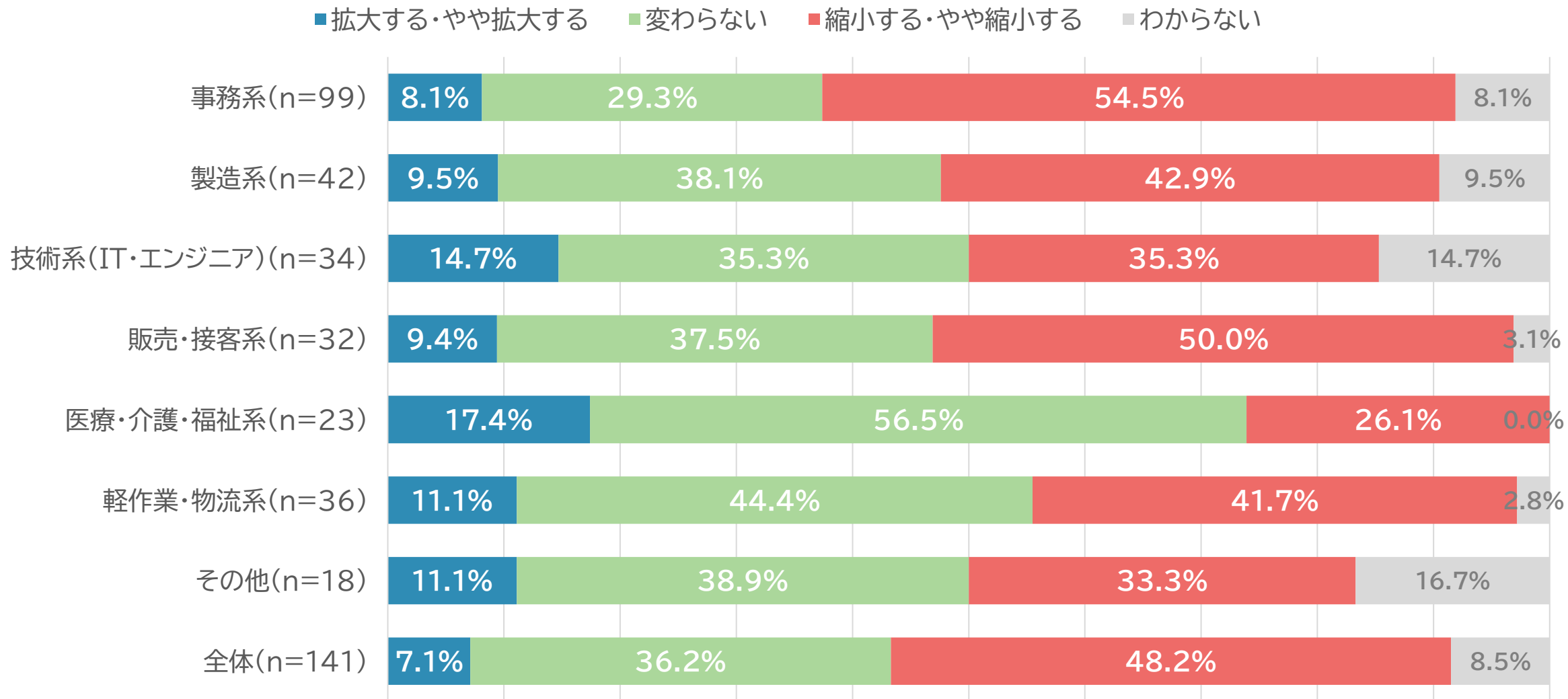


(n=136)

(n=141)

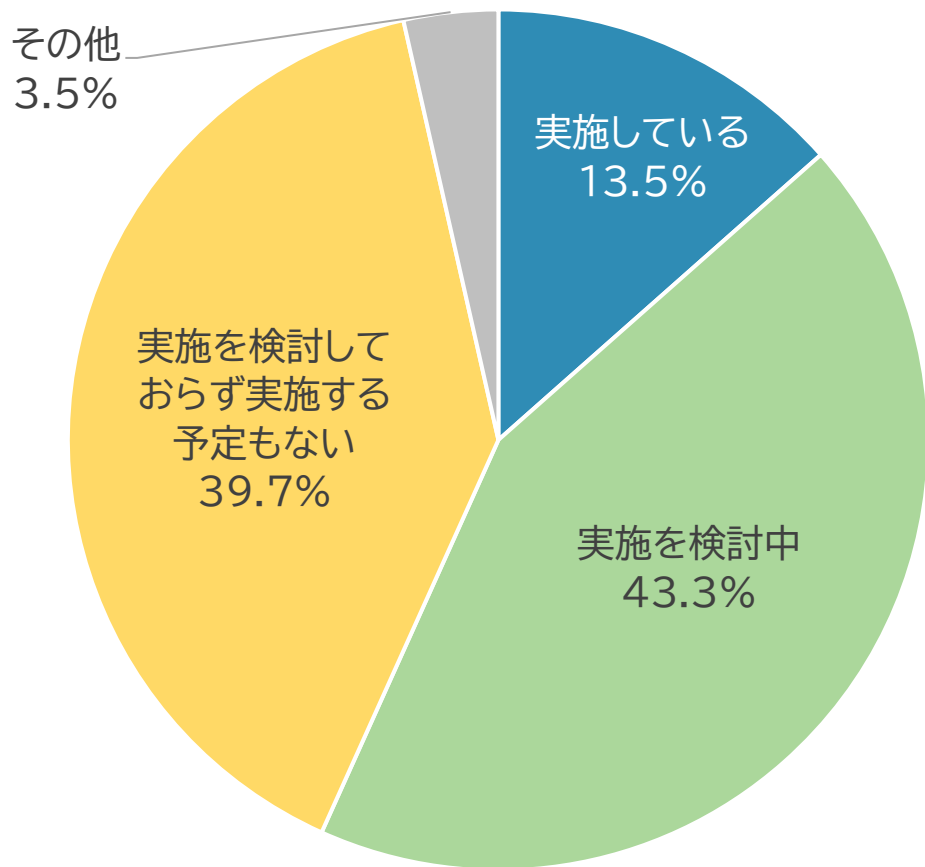
## 4-2. AIの進化による自社の事業の変化見通し（事業領域別）

AIの進化によって、自社事業が「変わらない」または「拡大する」と見る企業は、医療・介護・福祉系、軽作業・物流系、IT・エンジニアなど、対人対応・現場業務・専門性を伴う事業領域を持つ企業で比較的多い。



# 5-1. 派遣社員向けの生成AI活用に関する教育訓練

派遣社員向けの生成AI教育訓練は実施企業がまだ少ない一方、検討中の企業は多く、今後の拡大余地が大きい。実施している企業でも現状は入門・初級レベルが中心であり、実務で使える中級・上級レベルまでの展開には至っていない。



(n=141)

(「実施している」のみ n=16)	入門・初級レベル	中級・上級レベル
自社独自の研修	5	2
JASSAキャリアカレッジ(※)	7	2
外部の研修サービス	6	3
その他	3	0

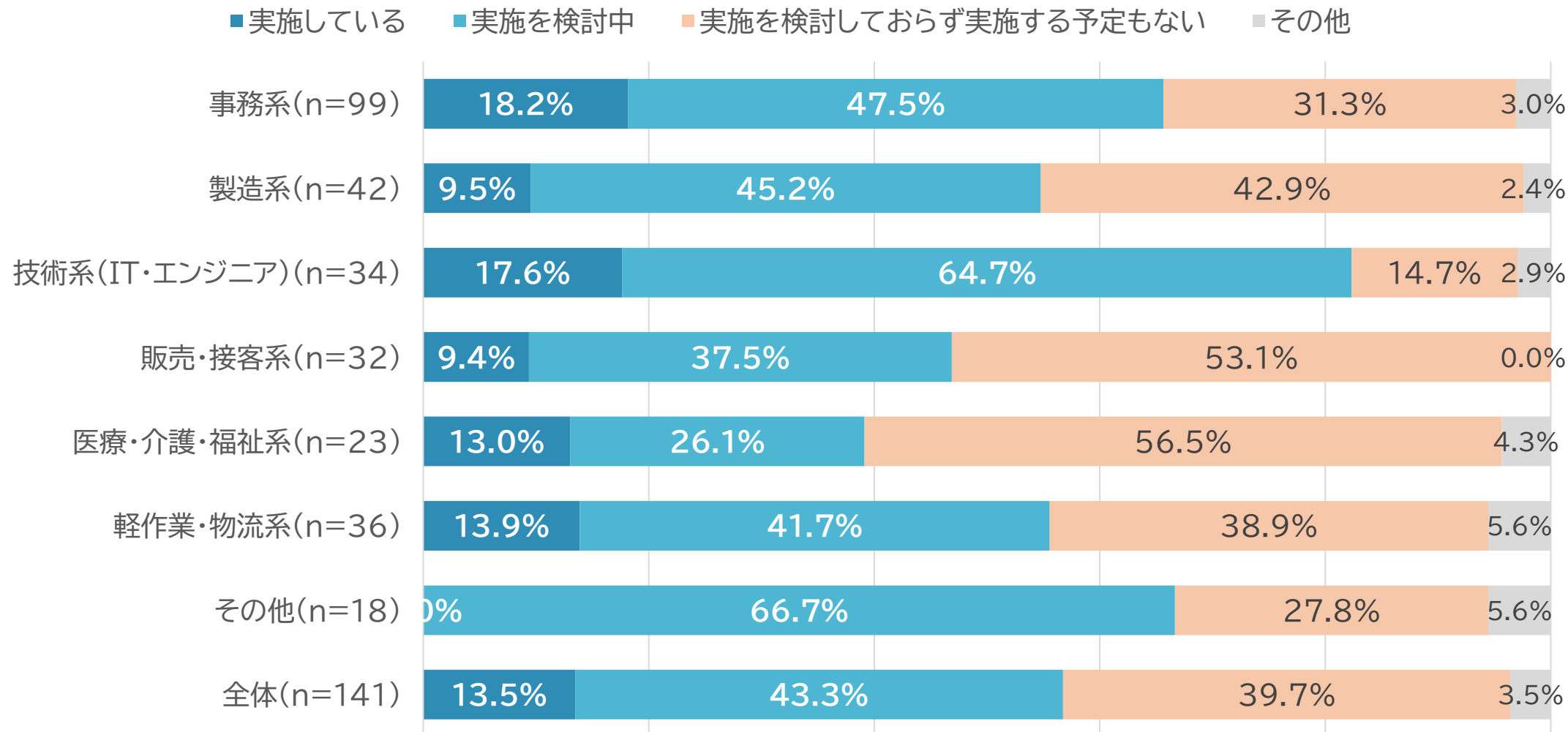
「入門・初級」… 生成AIの基本操作、プロンプトの基礎、利用にあたってのセキュリティなど

「中級・上級」… 業務への具体的な組み込み、業務改善、自動化、AI導入の推進など

※「JASSAキャリアカレッジ」とは  
日本人材派遣協会が会員向けに提供しているEラーニングサービス。2000以上あるコンテンツのうち、2025年度末時点でAI関連講座は45講座、受講者数はのべ12,640名に上っている。

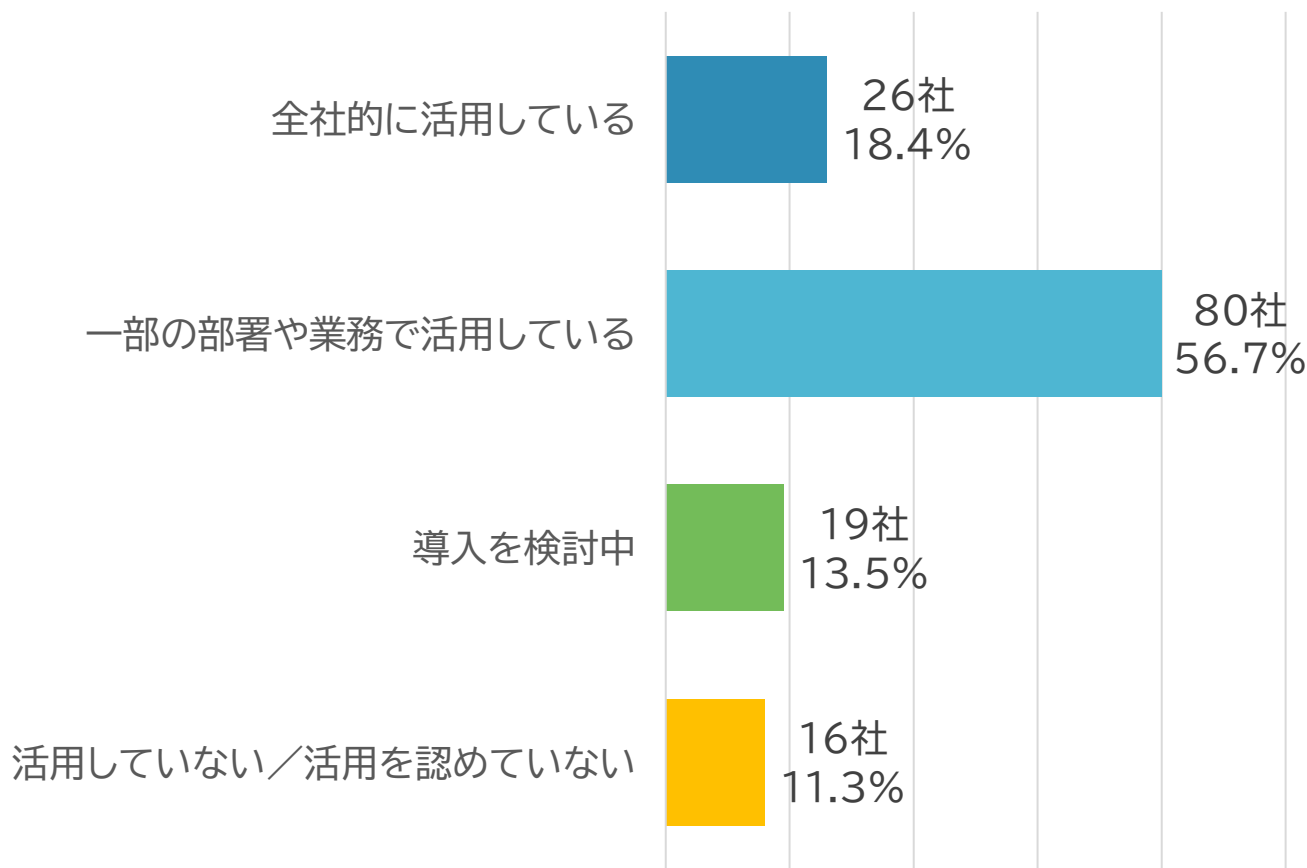
## 5-2. 派遣社員向けの生成AI活用に関する教育訓練（事業領域別）

派遣社員向けの生成AI教育訓練実施状況を事業領域別で見ると、技術系(IT・エンジニア)では「実施している」が約2割、「実施を検討中」まで含めると84.3%にのぼり、AI教育の必要性を認識していることがわかる。事務系でも「実施している」「実施を検討中」の割合は65.7%を占めた。一方で医療・介護・福祉系、販売接客系、製造系などでは「実施予定なし」の割合が高くなった。

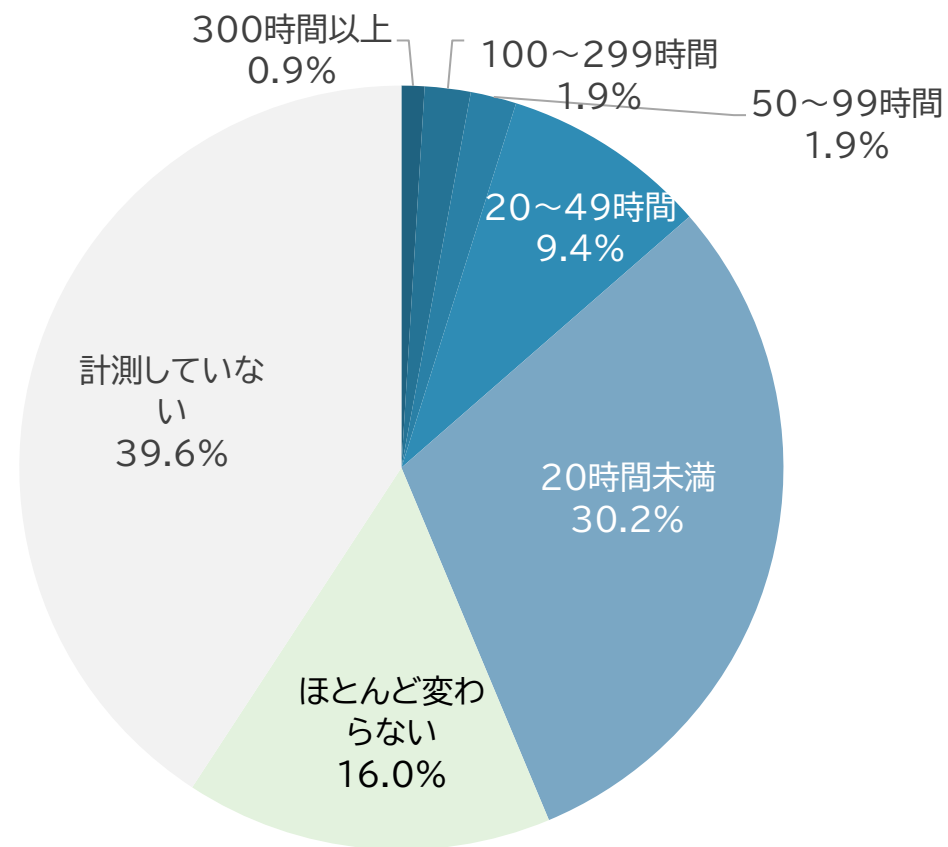


## 6. 社内での生成AI活用状況①

AI活用企業は多いものの、業務時間削減を「計測していない」企業が最も多く、効果測定はまだ十分に進んでいない。今後は導入効果を定量的に把握し、投資対効果を示していく必要がある。



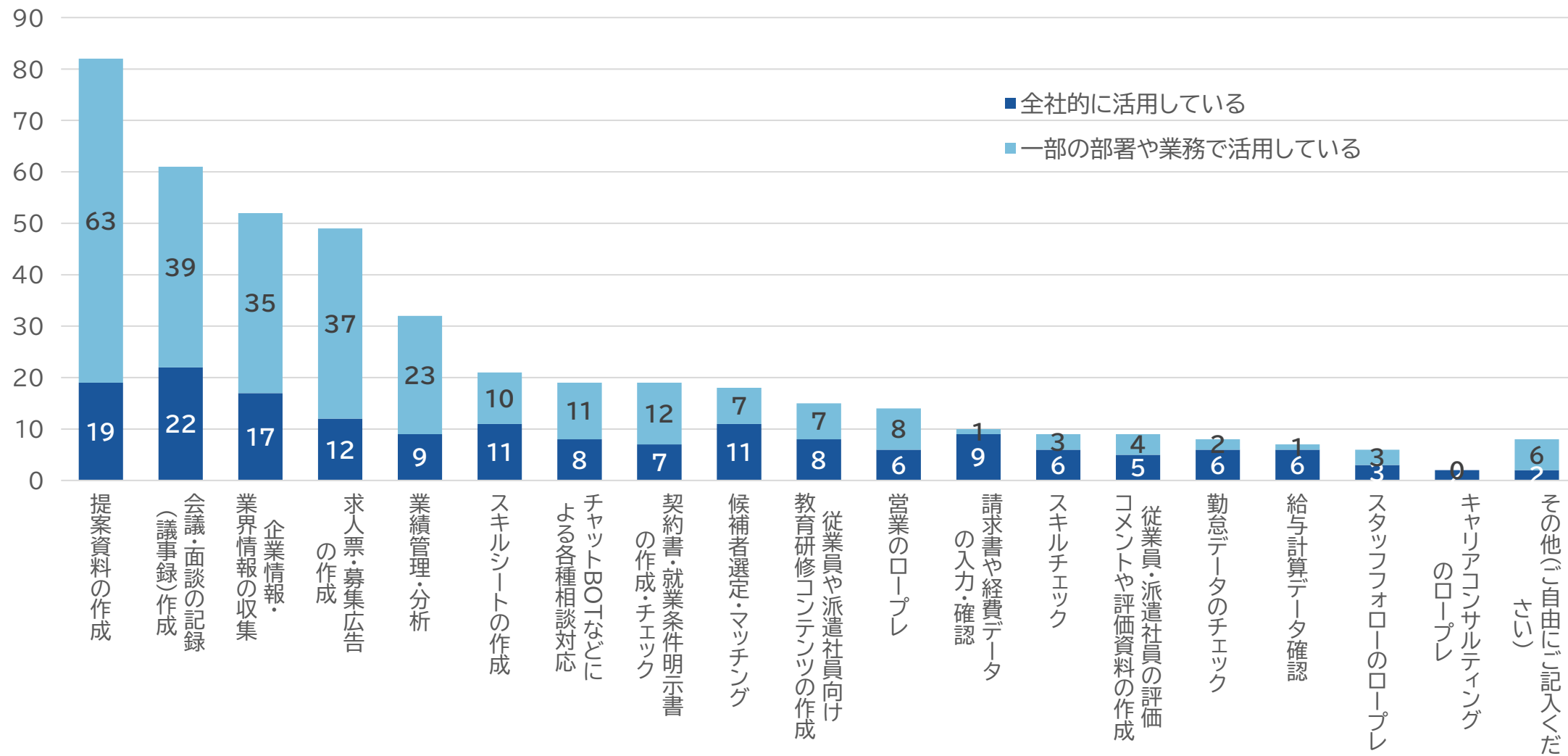
(n=141)



(「全社的に活用している」「一部の部署や業務で活用している」の合計 n=106)

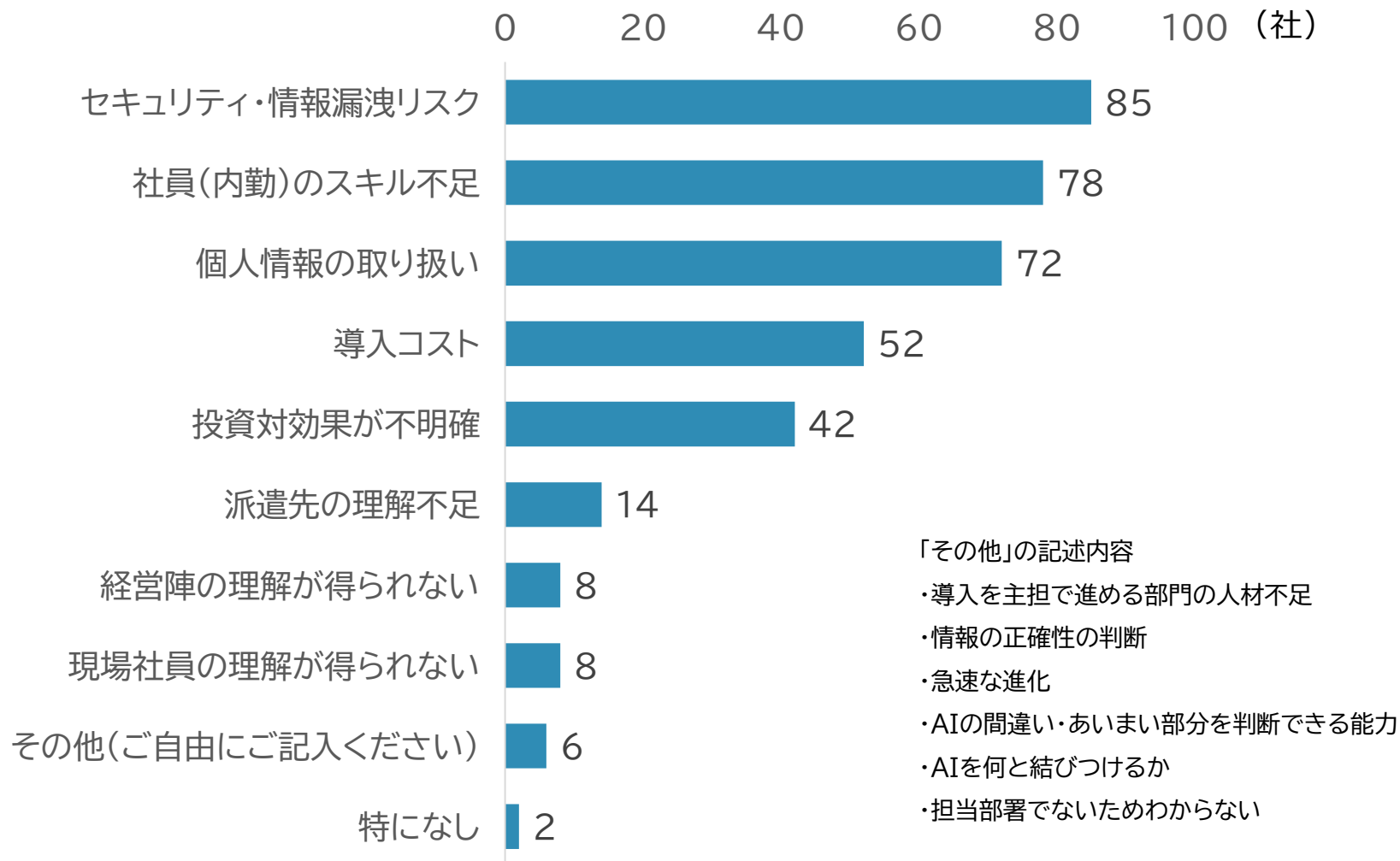
## 6-1. 社内での生成AI活用状況②

一部活用企業では提案資料作成など限定的な活用が中心だが、全社活用企業では資料作成や情報収集に加えて、採用関連の業務や、管理業務まで活用範囲が広がっている。



# 7. 生成AI活用の阻害要因

生成AI活用の主な阻害要因は、セキュリティ・情報漏洩リスク、個人情報の取り扱い、内勤社員のスキル不足である。導入そのものよりも、ガバナンス整備と人材育成が大きな課題になっている。



(n=141)

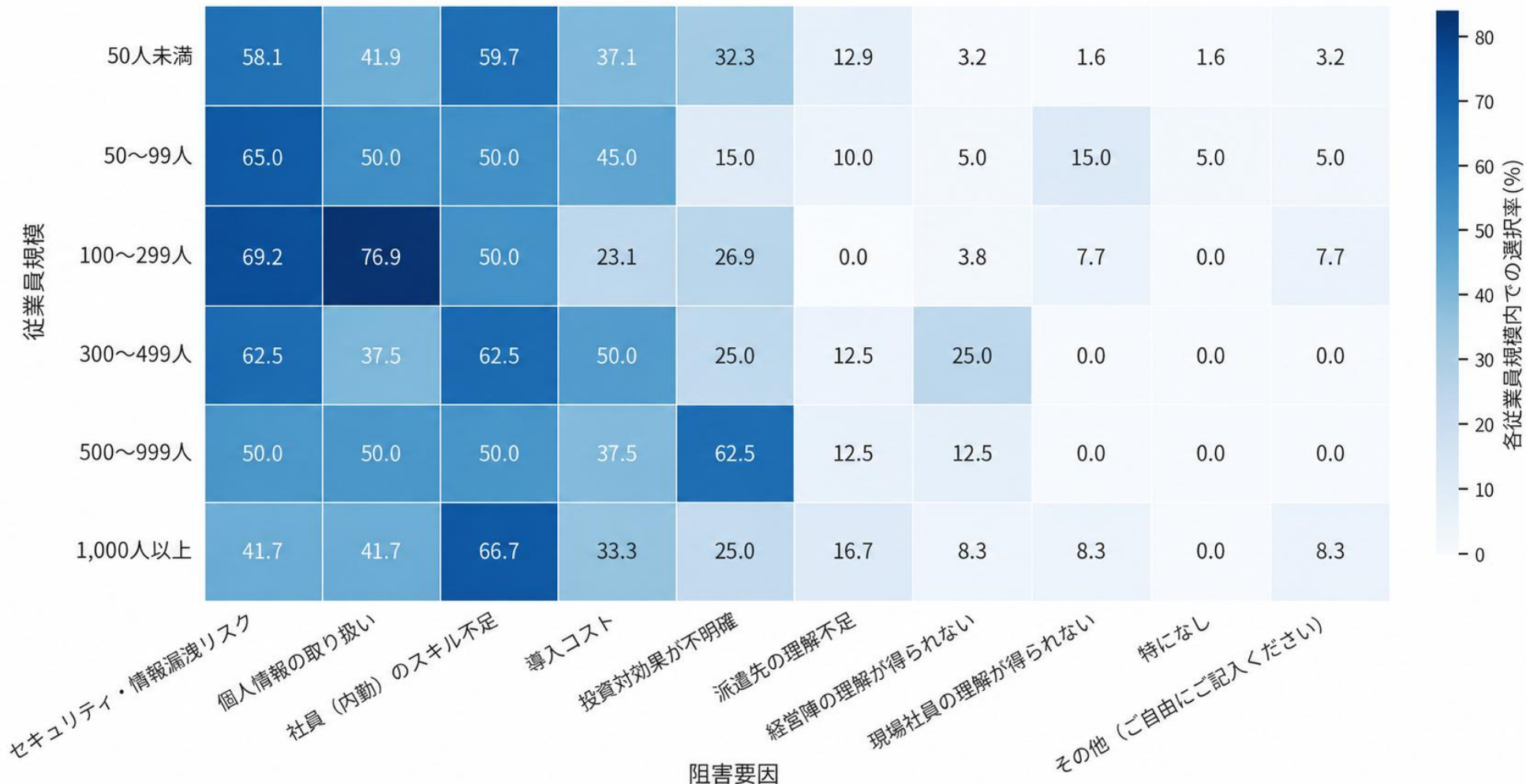
「その他」の記述内容

- ・導入を主担で進める部門の人材不足
- ・情報の正確性の判断
- ・急速な進化
- ・AIの間違い・あいまい部分を判断できる能力
- ・AIを何と結びつけるか
- ・担当部署でないためわからない

# 7. 生成AI活用の阻害要因（従業員規模別）

企業規模を問わず、セキュリティ面と内勤社員のスキル不足が共通課題となっている。特に小規模では人材不足、中堅規模では個人情報対応や費用対効果が阻害要因とされている傾向。

生成AI活用の阻害要因 × 従業員規模（構成比）



【本資料のお問い合わせ先】

一般社団法人 日本人材派遣協会 広報室

☎ 03-6744-4130

✉ koho@jassa.or.jp